

曾祖父の置き土産

秋田県横手市立平鹿中学校

二年 柿崎 正宗

えてして変化とは突然訪れるものだ。しかし、今年ほど変化の激しかった夏は未だかつてなかった。そして、その変化に比例するように僕の夏休みはほとんど充実していった。

最初の変化は、まさに突然にきた。夜中のことだった。急に曾祖父が亡くなったのだ。一週間ほど前に体調を崩してはいたのだが、その後、前よりはるかに元気になっていたのでもう大丈夫だろうと思いついでいたため、亡くなったというショックは家族全体にとつてすごく大きなものだった。さらに、葬式などの疲れから、祖母も体調を崩してしまった。

そのため、僕は祖母の家で行っている花詰めの仕事を夏休みの間手伝うことになったのだ。花詰めの仕事とは、お盆などに仏壇やお墓に供える花を箱に詰める仕事だ。僕の祖母の家は花卉栽培をしており、毎年この時期はかき入れ時なのだ。「花卉だけにかき入れ時」なんてつまらないじゃれを言っている場合ではない。今年も頼みの綱の祖母がいよいよ。自然と家族の中でも暇そうな僕に手伝いの白羽の矢が立ってしまった。

まず最初の仕事はシール貼りだ。いとこが組み立てた段ボールの箱に、花の品種やサイズ、重さなど

が記入されたシールを、一つ一つ丁寧に箱を確かめながら貼る。決して間違っただけじゃない重要な仕事だ。そしてその箱に花を詰めるのは父。一族総出で祖母の分をカバーしようと思死だった。

二人のペースを横目で確認しながら、シールを貼ったり花を運んだりする。詰め終わった箱はまた運ぶ。休み間が一秒もないほど忙しく、大変な作業だった。さすがに一時間に六十箱のハイペースで作業を進めたときには頭がくらくらしてきたが、それだけにやり終えたときの達成感は大きく、普段なら祖父が夜中までかかってやる作業を、午後八時にやり終えたときは思わずにんまりしてしまった。

そんな僕の奮闘が神様に伝わったのか、休んでいた祖母が、思いのほか早く仕事に復帰してきてくれた。しかし、これでお役御免、やれやれと思つたのはぬか喜びで、作業の本番はこれからだった。お盆がやってきたのだ。お盆時はお供えの花をさらにたくさん出荷しなければならぬ。引退を認めてもらえなかった僕の仕事は、過酷さを増していった。

そして、そんな中もう一つ大きな変化が僕に訪れた。それは剣道部の新キャプテンに任命されたことだ。すごく重要で大事な役目を任せてもらったことは正直嬉しかったが、それと同時にとても忙しく大変な役目だということも痛感させられた。

部員をまとめていくために意見を聞き、指示を出し、後輩に技も教えないならならぬ。手本となるよう常に全力で動き、人一倍声を張り上げる。いざやってみると、想像以上に難しく大変なことが分かった。

毎日疲れ果てて家に帰る僕に、追い打ちをかけるように花詰めの仕事はどんどんペースアップしていった。体のあちこちが筋肉痛で悲鳴を上げている。しかし弱音を吐いている暇はない。なんとかみんな

のペースに追いついていかなければ作業を待たせてしまう。いや、実際追いつけなくなり皆を待たせてしまったこともあった。しかしそんなとき、いつも父や、いとこ、そして祖父がサポートしてくれてなんとか乗り切ることができた。

そしてそれは剣道部でも同じだった。毎日疲れ果てて、竹刀を握る手にも力が入らない僕に、何も知らない先生の竹刀は、情け容赦なく飛んでくる。しかし、打ち返す気力もわかず、もう全て投げ出したくなる僕を、そのとき励まし、支えてくれ、主将の仕事を全うさせてくれたのは、やはり仲間だった。

家族、友人、たくさんの支えてくれる人たちがいたからこそ、苦しいことを乗り越え充実した毎日が送れたのだと思う。

こうしてようやく迎えたお盆。僕は昨年引き続き二度目の墓行に向かった。親戚のお寺の手伝いでお経を上げるのだ。去年は緊張のあまりお経を忘れることもあったが、今回は違った。自分でも驚くほど緊張せず、落ち着いてお経を唱えることができたのだ。

もちろん慣れということもあるのだろうが、なによりも僕の周りで起きた変化に僕自身が影響を受けたからなのだろう。僕のやってきたことは決して無駄ではなかった。周りの助けがなかったら成り立たなかったことは事実だが、僕なしで花詰めも部活動も成り立たなかったことも確かだ。そんなことに気が付き、自分に自信が持てたのだと思う。

曾祖父が亡くなったことは決して良い変化ではなかった。しかし、その変化が僕に物事をやりぬく力をくれたこともまぎれもない事実だと思う。それは今も天国で見守ってくれている曾祖父がくれた、僕への置き土産だったのかもしれない。

曾祖父が残したものは、悲しみだけではなく、僕が変わるための機会でもありました。そのことに気が付いたときこのテーマを決めました。作文を通して伝えたいことは、辛いときでも自分を見失わないということです。今、自分が負っている責任や、周囲との関係から自分をどう改善・変化させていくかが重要だと改めて思いました。